

日米合意に違反する米軍パラシュート降下訓練に嚴重抗議する意見書

基地周辺自治体及び議会が再三にわたり中止を求める中、米軍は嘉手納飛行場において、直近3回のパラシュート降下訓練を立て続けに強行した。9月26日に9回にわたり62人降下、10月9日には7回にわたり49人降下、23日にも2回にわたり14人が降下した。

今回の訓練は、令和5年12月19日から数えて17回目、今年に入って7回目、降下兵員総数は509名となる。

嘉手納飛行場でのパラシュート降下訓練はSACO最終報告違反であるとの指摘に対し、日本政府は「不定期」「小規模」「緊急の必要性」「滑走路の不具合の継続」の4要素が例外の理由に当たるとの認識を示し追認してきた。

しかし、これまでの経緯をみると、同訓練は月1回の頻度で繰り返され「不定期」ではなく定期的実施であり、総降下人員は500名を超え「小規模」ではない。さらに、MC130等の固定翼機だけでなくヘリを使用した訓練も実施され、「滑走路の不具合の継続」という要件は既に破綻している。

10月27日から30日にかけて自衛隊統合演習として伊江島補助飛行場において自衛隊及び米軍の合同のパラシュート降下訓練が実施され、滑走路の不具合が嘉手納基地使用の主たる理由に当てはまらないことが明確になった。

したがって、日米の示す「不定期」「小規模」「緊急の必要性」「滑走路の不具合の継続」の要件は既に破綻しており、嘉手納基地でのパラシュート降下訓練は日米合意違反であり強い憤りを禁じ得ない。

嘉手納飛行場は住民居住地に極めて近接し、操縦ミスや突風に煽られ住民居住地に着陸及び部品等が落下すれば重大な事故につながる。これまで、夜間降下や1個のパラシュートで複数人を降下させる等、訓練がより危険なものへと変化してきており、嘉手納飛行場でのパラシュート降下訓練は断じて容認できない。

嘉手納飛行場においては常駐機・外来機が入り混じり、早朝から轟音を立てながら断続的に離発着等の飛行訓練が繰り返され、パンプループ地区では昼夜を問わずエンジン調整や訓練が行われる等、周辺住民は長年にわたり騒音被害など過重な基地負担を強いられている。

このような状況下、常態化するパラシュート降下訓練は日米安全保障協議委員会の共同発表で確認された「嘉手納基地における負担軽減」にも逆行しており、我慢に我慢を重ねてきた町民の怒りは頂点に達している。

よって、嘉手納町議会は町民の生命、財産、安全及び平穏な生活を守る立場から、日米合意に違反する嘉手納基地での米軍パラシュート降下訓練に対し嚴重に抗議するとともに、下記事項の速やかな実施を強く要求する。

記

- 1 嘉手納基地における米軍パラシュート降下訓練を全面禁止すること。
- 2 平成19年に日米合同委員会で合意された「例外的措置」を撤廃すること。
- 3 同訓練は伊江島補助飛行場滑走路改修が完了するまでの間、県外・国外で実施すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和7年11月17日

沖縄県嘉手納町議会

(あて先)

内閣総理大臣 外務大臣 防衛大臣 内閣官房長官 (沖縄基地負担軽減担当)

沖縄及び北方対策担当大臣 外務省特命全権大使 (沖縄担当) 沖縄防衛局長 沖縄県知事

日米合意に違反する米軍パラシュート降下訓練に厳重抗議する決議

基地周辺自治体及び議会が再三にわたり中止を求める中、米軍は嘉手納飛行場において、直近3回のパラシュート降下訓練を立て続けに強行した。9月26日に9回にわたり62人降下、10月9日には7回にわたり49人降下、23日にも2回にわたり14人が降下した。

今回の訓練は、令和5年12月19日から数えて17回目、今年に入って7回目、降下兵員総数は509名となる。

嘉手納飛行場でのパラシュート降下訓練はSACO最終報告違反であるとの指摘に対し、日本政府は「不定期」「小規模」「緊急の必要性」「滑走路の不具合の継続」の4要素が例外の理由に当たるとの認識を示し追認してきた。

しかし、これまでの経緯をみると、同訓練は月1回の頻度で繰り返され「不定期」ではなく定期的実施であり、総降下人員は500名を超え「小規模」ではない。さらに、MC130等の固定翼機だけでなくヘリを使用した訓練も実施され、「滑走路の不具合の継続」という要件は既に破綻している。

10月27日から30日にかけて自衛隊統合演習として伊江島補助飛行場において自衛隊及び米軍の合同のパラシュート降下訓練が実施され、滑走路の不具合が嘉手納基地使用の主たる理由に当てはまらないことが明確になった。

したがって、日米の示す「不定期」「小規模」「緊急の必要性」「滑走路の不具合の継続」の要件は既に破綻しており、嘉手納基地でのパラシュート降下訓練は日米合意違反であり強い憤りを禁じ得ない。

嘉手納飛行場は住民居住地に極めて近接し、操縦ミスや突風に煽られ住民居住地に着陸及び部品等が落下すれば重大な事故につながる。これまで、夜間降下や1個のパラシュートで複数人を降下させる等、訓練がより危険なものへと変化してきており、嘉手納飛行場でのパラシュート降下訓練は断じて容認できない。

嘉手納飛行場においては常駐機・外来機が入り混じり、早朝から轟音を立てながら断続的に離発着等の飛行訓練が繰り返され、パンプループ地区では昼夜を問わずエンジン調整や訓練が行われる等、周辺住民は長年にわたり騒音被害など過重な基地負担を強いられている。

このような状況下、常態化するパラシュート降下訓練は日米安全保障協議委員会の共同発表で確認された「嘉手納基地における負担軽減」にも逆行しており、我慢に我慢を重ねてきた町民の怒りは頂点に達している。

よって、嘉手納町議会は町民の生命、財産、安全及び平穏な生活を守る立場から、日米合意に違反する嘉手納基地での米軍パラシュート降下訓練に対し厳重に抗議するとともに、下記事項の速やかな実施を強く要求する。

記

- 1 嘉手納基地における米軍パラシュート降下訓練を全面禁止すること。
 - 2 平成19年に日米合同委員会で合意された「例外的措置」を撤廃すること。
 - 3 同訓練は伊江島補助飛行場滑走路改修が完了するまでの間、県外・国外で実施すること。
- 以上、決議する。

令和7年11月17日

沖縄県嘉手納町議会

(あて先)

駐日米国大使 太平洋空軍司令官 在日米軍司令官 在沖米四軍沖縄地域調整官
在沖米国総領事 嘉手納基地第18航空団司令官 沖縄県議会議長